

コロポックルのお茶会 9月

特定非営利活動法人フリースペースふきのとう 広報紙

2017.9.23 発行

第 48 号

(特)フリースペースふきのとう
〒857-0874 佐世保市京坪町 8-1
TEL:0956-25-6222
FAX:0956-76-8131
E-mail:fporepore@shirt.ocn.ne.jp
<http://fsfukinotou.ec-net.jp>



知とこ知恵袋暮らしの歳時記 9月編

9月(長月)

日毎に夜が長くなる「夜長月」です。「秋の陽は釣瓶落とし」といいますが、秋を迎えると急に夜が長くなったような気がします。



《月待ち》

旧暦では月の満ち欠けが人々の暮らしを司っており、人々は月の光に畏敬の念を寄せていました。日本では古くから月の出るのを待つ「月待ち」の風習がありました。村の人達が集まり、お供えをし、飲食を共にしながら月の出を迎え、祈りを捧げました。十五夜、十七夜、十九夜、二十二夜、二十三夜、二十六夜などがあり、特に二十三夜が盛んでした。

《二百十日》

立春から数えて210日目。この頃は農家にとって稲の開花の大切な時期で、台風到来と重なることから、風を鎮める祈りを込めて各地で風祭りが行われてきました。

神社やお堂にお籠りをして祈願したり、風切り鎌を棟や軒に立てた盆踊りと併せて歌と踊りに乗せて暴風を吹かせる悪霊を追い出すなど、いろいろな形で祭りが行われ、今に伝わっています。奈良県龍田大社の風神大祭、富山県のおわら風の盆などが有名です。

《蛸》

夏から秋にかけて鳴く蝉です。日が暮れる頃多く鳴くことから「日暮れ」の意味でこう呼ばれるようになったようです。また、鳴き声から「かなかな」とも呼ばれています。夏の盛りの油蝉のようなにぎやかさはなく、「かなかな」と呼びかけるように鳴く声に古くから人々に親しまれ、詩や歌にも多く詠まれています。

ひぐらしの声もいとなく聞こゆるは、秋夕暮れになればなりけり(紀貫之)



暮らしの言葉

読めますか？

- ① 鰭 ② 鰻 ③ 鰯 ④ 鰺 ⑤ 鰹 ⑥ 鰾 ⑦ 鰼
⑧ 鰺 ⑨ 鰻 ⑩ 鰯 ⑪ 鰺 ⑫ 鰹 ⑬ 鰾 ⑭ 鰼 ⑮ 鰻

答え

- ① サワラ ② カジカ ③ コノシロ ④ タラ ⑤ アジ ⑥ ヒラメ
⑦ カレイ ⑧ ブリ ⑨ ニシン ⑩ ハモ ⑪ ドジョウ ⑫ ナマズ
⑬ サメ ⑭ シャチ ⑮ ワニ

9月の五節句

9月9日 重陽(ちょうよう) 菊の節句としてお祝いします。

9月の二十四節気

【白露】 旧暦…8月節 新暦…9月7日頃

白い球の露が結ぶ頃で、秋の気配が一段と濃くなってきます。

【秋分】 旧暦…8月中 新暦…9月13日頃

春分と同じく、太陽が真東から昇り、真西に沈み、昼と夜の長さがほぼ同じになります。秋の彼岸の中日です。

第27回

子どもの権利条約ってなに？ 万引きってなんでわるいの？



私たちの社会では、万引きは犯罪です。人のものを盗むということは、その金額や量の大小にかかわらず、犯罪なのです。

ところが、今の子ども社会では、「そんなに高くないんだからいいじゃん」「たった1個なんだから」「見つかったの、運がわるかったなあ。みんなやってるのに」とつぶやく子どもたちが少なくありません。万引きが犯罪であるという自覚がほとんどないようです。

一方、親の中にも「お金を払えばいいんでしょう」「1回目なんだから大目にみてくださいよ」と、子どものやったことに対して向き合うとしない親もいます。

これでは、子どもたちはせいぜい、「次は見つからないようにしよう」と思うくらいで、自分の行いを省みることはほとんどないでしょう。

万引きが犯罪であること、そして子どもとしての責任をどうとっていくか、これらをどのようにして親子で受け止めていけばいいのでしょうか？

万引きってなんで悪いの？

「だって安いし。」「たった1個だけだからいいじゃん。」

「見つかったちゃった～。運が悪い！」「なんとなく…別にほしかったわけじゃない。」



子どもの権利条約では

権利は、子どもの成長をさまざまな側面から助けます。同じように、子どもとして責任を負うことも、子どもを大きくさせてくれます。何かの役割を与えられ、その責任を果たしたとき。子どもたちは自分を誇らしげに感じ、多くのことを学びます。ところが今、子どもたちは、子どもとしての責任を果たすどころか、とるべき責任を奪われているのです。

「お金さえ払えばいいんでしょ」という親もいます。また、子どもの事情を聞かずに叱ったり、親が勝手に処理してしまえば、子どもたちは万引きという罪を自分のこととして捉える機会を逸してしまうでしょう。つまり、責任を自覚する機会を奪われてしまうのです。



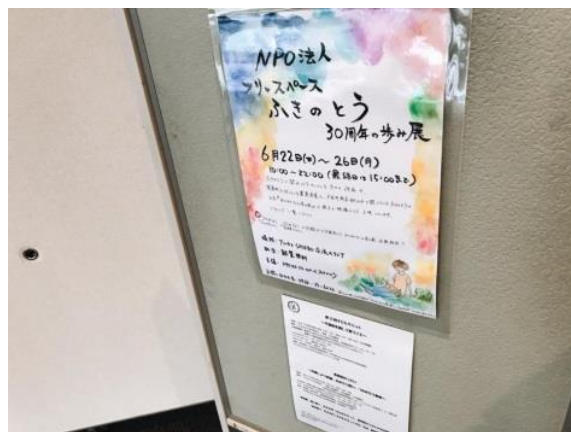
次回は、
「性暴力ってなに？」について、少し紹介致します。

アルカス SASEBO 交流スクエアにて フリースペースふきのとう 30周年歩み展、開催！



2017年6月22日(木)～26日(月)於:アルカスSASEBO 1F交流スクエア

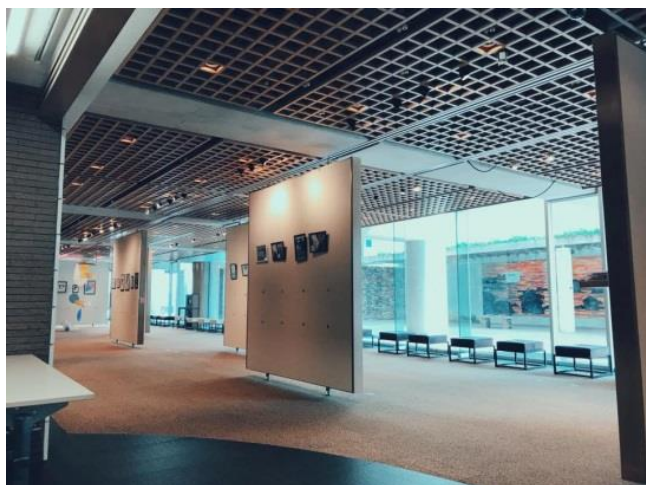
6月22日～26日の5日間、アルカス SASEBO1階交流スクエアにてフリースペースふきのとう30周年の歩み展を開催致しました。



5日間の延べ人数は約1300人！たくさんの方に見ていただきました。

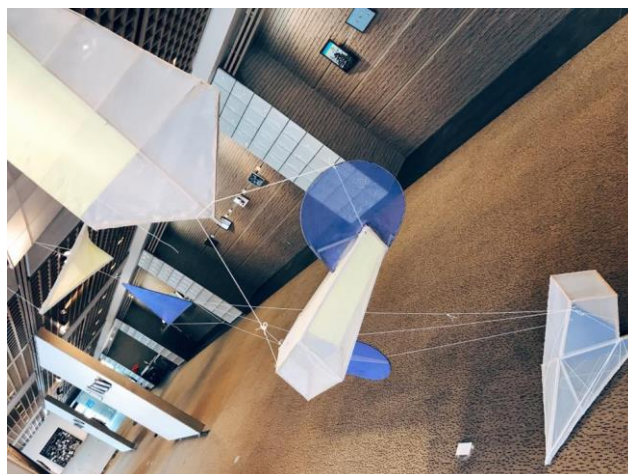
ふきのとうに関わってくださっている、造形作家の大石博先生や、人形劇団・ステンドグラスかん工房の巻さんや、ふきのとうの会員さん、当事者の若者たちにご協力いただき、様々な個性豊かな作品を展示することができました。

初日は9時から展示作業をスタートし、スタッフみんな汗だくになりながらも開場予定時刻の12時ぴったりになんとか設営が完了し、TVさせばの取材も来ていただきました。





なかなか好評だったのは、佐世保市黒島町の PR コーナーでした！
農業事業で黒島に行った際、島内や海からみた黒島を撮った動画をエンドレスで上映したり、手描きの黒島マップや黒島地域おこし協力隊の方が撮影された写真を飾ったりと、濃い黒島の紹介ができたかと思います。



来場された方々にふきのとうの活動や黒島について尋ねられたり、素敵な作品ですねとお褒めいただいたりと、嬉しい声も多数いただきました。
徐々にではありますが、ふきのとうやみんなのマルシェ星の風、黒島への認知度向上に繋がっていているような気がしました。



観に来てくださってありがとうございました♡

私たちは、フリースペースふきのとうを支援します。
(株)実光測量設計



第13回子どもサミット ～不登校を通して思うこと～

2017年6月24日(土)12:30～ アルカスSASEBO 3F大会議室

今年は、基調講演とコーディネーターを毎年お願いしている高垣忠一郎先生をお迎えして実施しました。

12時半より、オープニング。青年の方の司会進行で始まりました。初めに理事長山北眞由美さんの挨拶のあと、うたごえサークルふれんどより2曲が披露されました。

いよいよ、高垣忠一郎さんの基調講演に入りました。演題は「不登校問題はおとなに何を問いかけているのか？」と題し、お話がありました。

高垣先生の話は、「教育の現場が人材育成になっている」という言葉が印象に残りました。参加者は、心にじ〜んときたお話だったという声が多かった講演でした。

休憩を挟んだあと、第2部の子どもサミットに入りました。高垣先生がコーディネーターを務め、4名の子どもたちが前に出て体験談を語りました。会場みなさんは、子どもたちの勇気に感動されていました。



参加者の声

《基調講演の感想》

- ・親の思っていない発想でした。本当にプラスになりました。
- ・もっと聴きたかったです。初めて聴き、じ〜んとしました。
- ・人格の育成ではなく、人材の育成になっているという言葉は、本当にその通りだなと思いました。
- ・子どもたちは「今、ここを生きている」という言葉が心に残った。ぐさっと心に突き刺さった。私たち大人が(世の中が)変わらなければいけないと痛感した。

《子どもサミットの感想》

- ・自分の経験と共感出来る話が多くありました。現在は農業体験の支援を通して、社会復帰する側でいます。これからも、自分の経験を活かして、支援を続けていければと考えています。
- ・「不登校・ひきこもりが世界を変えていく」サポート出席の若者と高垣先生との間に通い合う、温かい信頼関係が会場を満たしていった、いい時間でした。
- ・どうしてもマイナスイメージの不登校とひきこもりをプラスに考えている子どもたちに少しほっとしました。自分の子どもを心の中を見せてくれないので、どんなふう考えているのか、少し見えたような気がします。



ふきのとう創立 30 周年のつどい終わる！

2017.6.24(土)セントラルホテル「アゼリアの間」

子どもサミット終了後、セントラルホテルへ移動して、ふきのとう創立 30 周年のつどいをセントラルホテル「アゼリアの間」で約 70 名の方たちが集い、みんなでお祝いしました。

司会進行は、NPO法人ちいきのなかまの三宅亜貴子さんと人形劇団かんの巻信幸さんが務め始めました。

最初に開会のあいさつを理事長の山北眞由美さんよりありました。続いて、参加されたお客さまよりご祝辞を頂きました。ご祝辞を頂いたのは、佐世保市教育委員会教育次長の中原弘之さん、長崎県長崎こども・女性・障害者支援センターの琴岡日砂代さん、長崎県佐世保こども・女性・障害者支援センターの柿田多佳子さんよりそれぞれのメッセージを頂きました。

その後、登校拒否・不登校問題全国連絡会世話人代表の高垣忠一郎さんより乾杯の音頭があり歓談に入りました。参加者は、たくさんの交流ができ、セントラルホテルの料理に堪能しました。

また、菊雅楽孝子さん(山本孝子)よりお琴の演奏と、南無(なも)の中村章さんよりギター演奏の披露がありました。琴の演奏ではアンコールの声もあがったぐらいに胸にしみ込んでいく音色に参加者は聞き入っていました。

この日は、お客様の他に今までお世話になっている方たちも参加してくださいました。今の居場所を提供してくださっている池田和博さん、長崎新聞社の坂本文生さん、数学の学習サポートの先生、永富光朗さん、佐世保子ども劇場代表の田向廣子さん、そしてOBの柴田つねみさん。それぞれの方たちからメッセージを頂きました。

最後は閉会のあいさつを副理事長の坂本雅俊さんよりありました。

とても有意義のある会でした。たくさんの参加ありがとうございました。

また、これに伴い、たくさんの祝儀を頂きました。併せてお礼申し上げます。



参加した若者からもお祝いのメッセージを頂きました！！

長崎県のつどい

～共感しよう仲間・広がりう思い・つながろう地域～

2017年6月25日(日) 於:アルカスSASEBO他



今年で6回目となる長崎県のつどいは、コーディネーターに県内各機関(行政、社協、医療など)を迎え、11の分科会に分かれて実施しました。

今年度は初めての取り組みとして企業とNPOの協働実施を考える分科会と特別テーマとして「教育機会の確保法」成立から学ぶ分科会をしました。

まず、分科会に分かれる前に全体会として「教育の機会の確保法」の成立に関する報告がありました。文部科学省から取り組みの内容について高橋由紀さんよりお話がありました。また、全国連絡会より実施されるまでの動きを古庄健さんよりお話がありました。続いて各分科会に分かれて交流を行いました。

①不登校 A. 小学校(スピカ 2F 研修室1)

コーディネーター:田川雅章さん(長崎県佐世保こども女性・障害者支援センター
子ども保護判定課課長)

共同研究者:茶園眞光さん(NPO法人おおさか教育相談研究所相談員)

《参加者の声》

残念ながら感想は寄せられませんでした。



①不登校 B. 中学校(スピカ 2F 研修室2)

コーディネーター:中村修太さん(長崎県佐世保こども女性・障害者支援センター
相談支援班係長)

共同研究者:柚木健一さん(NPO法人おおさか教育相談研究所理事長)

《参加者の声》

残念ながら感想は寄せられませんでした。



①不登校 C. 高校(スピカ 2F 研修室1)

コーディネーター:柿田多佳子さん(長崎県
佐世保こども女性・障害者支援センター所長)

共同研究者:内田良子さん(子ども相談室「モモの部屋」主宰)

《参加者の声》

・心が楽になりました。(親)

・親の方々の気持ちをストレートに聴くことができました。こういう集まりの重要性、親にとっての必要性を感じました。(当事者)

②発達障がいと不登校・ひきこもり(アルカス SASEBO 3F 小会議室)

コーディネーター:谷口敬太さん(佐世保市保健福祉部障がい福祉課主任技師)
羽辺由紀子さん(佐世保市保健福祉部障がい福祉課主任技師)
共同研究者:加藤由紀さん
(NPO法人大阪障害者センター「発達支援センターぽぽろ」相談員)

《参加者の声》

•それぞれの経験や思いのお話を聴かせて頂き、有意義な時間を過ごすことができました。(支援者)



③ひきこもりと家族支援(アルカスSASEBO 3F 中会議室A)

コーディネーター:久佐賀眞理さん(長崎県立大学シーボルト校教授)
琴岡日砂代さん
(長崎県長崎こども・女性・障害者支援センター
精神保健福祉班係長)
共同研究者:村上公平さん(NPO法人おおさか教育相談研究所相談員)

《参加者の声》

•村上先生の言われることがよくわかりました。細かく事例をあげて話されてよかったです。(家族)
•村上先生の親としての役割について学んだ。本当に心が深くて当事者の心にスッと入ってくるお話をたくさん聴けた。(保健師)



④子どもの最善の利益を考える(アルカスSASEBO 3F 中会議室B)

コーディネーター:納富博子さん(佐世保市子ども未来部子ども保健課課長)
共同研究者:横湯園子さん(元北海道大学・中央大学)

《参加者の声》

•横湯先生からの深〜いお話を聴かせて頂き、大変良かった。



**⑤若者・青年と共に生きる(居場所)当事者の交流 A. 中高生グループ
(スピカ 2F 創作室)**

コーディネーター:安藤佳珠子さん(長崎国際大学講師)

共同研究者:春日井敏之さん(立命館大学教授)

《参加者の声》

残念ながら感想は寄せられませんでした。



**⑤若者・青年と共に生きる(居場所)当事者の交流
B. 若者・青年グループ**

(スピカ 2F 創作室)

コーディネーター:国貞亮一さん(公務員)

共同研究者:高垣忠一郎さん(心理臨床家)

《参加者の声》

残念ながら感想は寄せられませんでした。



**⑥支えあう連携づくり A. 企業とNPOの協働実施を考える
(アルカス SASEBO 3F 大会議室C)**

コーディネーター:原田良太さん(長崎県中小企業家同友会佐世保支部支部長)

共同研究者:山本尚由さん((有)アイ企画代表取締役会長(東京同友会)
(登校拒否・不登校を考える会東京の会代表)

総合司会:巻信幸さん(人形劇団かん主宰)

パネリスト:川添ケイ子さん(川添商工代表取締役)

辻 千穂子さん(五島観光タクシー代表取締役)

神田識二郎さん(九州電力企画・総務部地域戦略グループ長)

北村洋一さん(九州電力企画・総務部地域戦略副長)

石川範夫さん

(日本たばこ産業(株)九州支社営業総務部社会環境推進部長)

小橋和則さん(長崎県県民生活部県民協働課課長補佐)

三原直也さん(NPO法人黒島観光協会(地域おこし協力隊))

川原早苗さん(NPO法人フリースペースふきのとう理事)

《参加者の声》

・九電やJTの方々がおられたので、思ったよりも中間支援的なお話で、つどいでは意外だなという印象を取りました。テーマ的にいろいろな意見が出て、まとめると難しいんじゃないかなと思いましたが、コーディネーターの原田さんが大変すばらしくお話を進められたので、非常に参考になる分科会でした。(当事者)

⑥支えあう連携づくり B. 行政機関、小中高、大学～中間就労支援 (アルカスSASEBO 3F 大会議室B)

コーディネーター:脇野幸太郎さん(長崎国際大学准教授)

神吉裕司さん

(佐世保市社会福祉協議会地域福祉課総合相談班主幹)

共同研究者:高橋薫さん(NPO法人文化学習協同ネットワーク理事)

田中良彦さん(中学校教諭)

パネリスト:三塩光司さん

(佐世保市市民生活部コミュニティ協働推進課課長補佐)

千北充範さん(小学校教諭)

古川清司さん(中学校教諭)

小田 誠さん(高校教諭)

《参加者の声》

・不勉強でよくわからないことも多かったが、たくさんの支援があることを知った。学校で適応できなかった子どもが不利益を受けないように選択できる社会をつくっていくことが大切だと思った。私は学校の中で自己肯定感を高めたり、誰かとつながり、失敗も認め合える関係性をつくっていくことをやっていきたいと思った。勉強になりました。(教職員)



⑦特別テーマ 「教育の機会の確保法」成立実施から学ぶ (アルカスSASEBO 3F 大会議室A)

コーディネーター:坂本雅俊さん(長崎国際大学教授)

共同研究者:前島康男さん(東京電機大学教授)

総合司会:馬場保子さん(活水女子大学講師)

パネリスト:高橋由紀さん(文部科学省生徒指導室課長補佐)

古庄健さん(登校拒否・不登校問題全国連絡会事務局)

大川周一さん(長崎県教育庁義務教育課児童生徒支援室参事)

相川孝子さん(元中学校教諭)

永田秀人さん(佐世保市市議会議員)

《参加者の声》

残念ながら感想は寄せられませんでした。

平成 28 年度 定期総会終わる！

2017 年6月 29 日(木) 19:00～20:30 於:当法人事務所

平成 28 度の定期総会を開催しました。正会員 20 名のうち 10 名が出席、委任 5 名で総会が成立しました。

まず、はじめに正会員より議長1名、出席者より書記1名と議事録署名人2名を選出し、続いて理事長より1年のまとめに入り議事を行いました。

《第1号議案》平成 28 年度活動報告の件

理事長の山北眞由美さんより平成 28 年度活動報告がありました。

《第2号議案》平成 28 年度活動計算書、貸借対照表の件

理事の山北美和さんより決算報告がありました。

《第3号議案》平成 28 年度監査の件

監事の池田和博さんより監査報告がありました。

《第4号議案》役員改正の件

理事の山北眞由美さんより、役員改正以下が以下の提案がありました。

- 
- ・理事長 山北 眞由美
 - ・副理事長 山本 耕平(立命館大学教授)
坂本 雅俊(長崎国際大学教授 地域福祉担当)
 - ・理事 隈元 京子
土橋 公江(ひきこもり家族の会担当)
武次 千賀子(不登校児を持つ親の会担当)
川原 早苗(「みんなのマルシェ星の風」担当)
山北 美和(事務局長 事務局実務)
 - ・監事 池田 和博(学童期居場所オーナー)
白川 朱美(佐世保子ども劇場事務局長)

《第 5 号議案》定款変更に関する事項

総会の開会定足数の変更の提案がありました。第 28 条の正会員数の 2 分の 1 以上の出席から正会員数の 2 分の 1 以上の出席及び書面表決に変更することを出席者の全員一致で承認を受けました。

《第6号議案》平成 29年度活動計画の件

理事の山北眞由美さんより平成 29 年度活動計画の提案がありました。詳細は、次の次のページをご覧ください。

《第 7 号議案》平成 29 年度活動予算の件

理事の山北眞由美さんにより平成 29 年度活動予算の提案がありました。

※第1号から第 7 号議案の議決は、原案通り全会一致で承認を受け、総会は無事に終わりました。

総会で決まったこと



★正会員、賛助会員、情報会員、広告支援会員の会員数を増やしましょう！

昨年度は、助成金や補助金、寄付などを頂きましたが、子どもたちの賃金は助成金では充てられず、売上金からとなっています。しかし、去年の 4 月に「みんなのマルシェ星の風」がオープンしたばかりで売り上げが少なく、その分の支出負担が増え、赤字となりました。また、管理費を会費で支えていくことが不安定な状況になっていて、NPO法人フリースペースふきのとうの活動を維持していく為に、総会では正会員、賛助会員、情報会員、広告支援会員の会員数を増やしていくことに決まりましたので、みなさんのご協力の程、よろしくお願いします。



ちょっとメモ



・現在のフリースペースふきのとうの利用会員は、利用登録していない会員さんが増えています。これは、生活困窮者の方たちが増えて来ているからです。フリースペースふきのとうでは、生活困窮者の方たちへの会費は免除になっています。そうしたことから、なかなか利用会員が増えない状況になっています。前項で述べたように、利用会員の他にフリースペースふきのとうを支えてくださる正会員、賛助会員、情報会員、広告支援会員の会員を増やし、フリースペースふきのとうの活動を維持していくことが必要です。



ハロウィンって？

もうほとんど定着したハロウィンですが、まだまだ知らないことも多いと思います。

日本でも仮装大会などのイベントが各地で盛大に行われ、街中がハロウィン一色で盛り上がっています。

小さなお子さんがいる家庭では、ハロウィンにはお菓子を貰えたり、と大喜びなのですが、「ハロウィン」って何？と聞かれるとうまく答えられなくて、戸惑っている親御さんが多いようです。今回は、ハロウィンについて、これだけ知っておきたい事柄！「ハロウィンとは？」「意味や由来は？」「なぜかぼちゃんのか？」など基本的な事を紹介したいと思います。



《ハロウィンの意味と由来は？起源はいつ？》



ハロウィンは、古代ケルト人が、起源と考えられているお祭りの事で、毎年、「10月31日」に行なわれます。古代ケルト人の人間は、ハロウィンは1年の終わりの夜で、すなわち大晦日のを意味し、将来を占うのに、格好のときとされていました。またその夜には、死者の魂が家族のもとを、訪れるとも言われていました。この日は秋の収穫を祝う収穫祭が行われますが、この1年の終わりの日の夜になると、先祖の悪い霊がやってくると信じられ、収穫を祝うとともに、悪霊を追い払う宗教的な、意味合いのある民族行為です。ただし最近では宗教的な意味合いは薄れ、カボチャをお化けの形にくり抜いた、ジャック・オー・ランタンといわれるものを飾り、仮装した子どもたちが「Trick or treat!」、といいながら近所をまわりお菓子を、貰うお祭りになっています。また大人や子どもに関わらず、仮装して楽しむイベントになっています。

《ハロウィンの起源はいつ？》

2000年以上も昔、ケルト民族の宗教の一つに、ドルイド教というものがありました。その儀式の一つのサウィン祭が起源といわれています。サウィン祭とは秋の収穫を祝い、悪霊を追い払う祭りでした。冒頭でお話したように、古代ケルトでは一年の終わりが10月31日とされていて、この日は日本のお盆のように死者の魂が、家族のもとを訪れるとも言われていました。ただ日本のお盆と違い、精霊や悪霊も一緒に来てしまうと信じられていたのです。その悪霊は家畜や作物に悪い影響を与えたり、子どもをさらったりすると言われていました。そこで悪霊たちを驚かせて追い払うために、仮面をかぶったり、魔除けの焚き火をしたりしたと言われていました。そこから今の仮装をする習慣が生まれたというわけです。ケルト民族は時代を経た後、キリスト教のカトリック系の民族に侵略されてしまいます。侵略したカトリック教は、異教徒の習慣を根絶せず、自分たちの宗教に取り入れていきます。その形が今のハロウィンに繋がっているんですね。



《ハロウィンの語源は？》



カトリック教は11月1日を聖者の日と定めていたため、前夜である10月31日を聖者の、英語「HallowからHalloween」と言われるようになったのです。この「Halloween」の語源は諸説あり、カトリック教会で11月1日に祝われる「諸聖人」の、前夜にあたることから、諸聖人の日の英語での旧称「All Hallows」の「eve(前夜)」、「Hallows eve」が訛って、「Halloween」と呼ばれるようになった説や、神聖な「Hallow」と「evening」が合わさり、「Halloween」になったという説があります。それがキリスト教の文化圏がだんだんと広がっていき、時代を経て今のハロウィンになったのです。



《ハロウィンで仮装するのはなぜ？》

ハロウィンに仮装する理由は色々な説がありますが、いずれも元々は、「魔除け」の意味合いから仮装する風習が受け継がれて行ったと思われます。代表的な諸説に、死者の魂がこの世に戻ってくる中に、悪霊や魔物も一緒にこの世にやって来て、あの世に連れて行こうとするので、迎える側もお化けの格好をして、悪霊や魔物の仲間だと思わせます。そうすることで、仲間だと思った悪霊や魔物たちは、襲ってることがなく、魂も取られることはない。と言った説が一般的で、ハロウィンには仮装をするというのが今に広がっています。もし小道具を安く手軽に揃えたい場合は、100円ショップを利用してみてはいかがでしょうか。意外と侮れないグッズがたくさん出て来ています。

《ジャック・オー・ランタン》



ハロウィンのシンボルとして有名なものに、かぼちゃを切り抜いたものがあります。名前の由来は後ほど説明しますが、これをジャック・オー・ランタンと呼んでいます。ジャック・オー・ランタンとはオレンジ色の、カボチャに目や口などの形にくり抜いていき、その内側にロウソクを灯した提灯のことで、ハロウィンのシンボルとして有名です。なぜカボチャなのか？疑問に思う方も多いと思いますので、簡単に説明します。カボチャにはお守りとしての意味があり、カボチャの提灯は悪霊から守る番犬の役割があるそうです。またカボチャのロウソクは日本のお盆のように、親族の霊の目印という意味合いがあるそうです。この提灯を作る風習は、イギリス地方が始めたことらしいのですが、最初はカブを使って作っていたそうです。それがカボチャを使うようになったのは、アメリカにこの風習が伝わった時、アメリカにはたくさんの、カボチャがあったからだと言われています。

《ジャック・オー・ランタンの名前の由来》

ジャック・オー・ランタンの名前の由来は、アイルランドの物語が由来だとよく言われています。その昔ジャックという名前の、悪いことばかりする男が住んでいました。あるときジャックの前に悪魔がやってきて、ジャックの魂をとろうとしたところ、ジャックは悪魔をあの手この手を使って騙し、悪魔にジャックの魂を取ることをしないという約束をさせました。そしてジャックが亡くなった時、悪いことばかりしていたので天国にはいけず、地獄に行こうとすると悪魔が現れ、お前の魂はとらないと約束したから、地獄に連れて行けないと言いました。ジャックは悪魔から火の塊をもらい、それをカブの中にいれて提灯にし、天国にも地獄にも行けないまま、さまよい続けるというお話です。この物語から、悪魔をだまし追い払った、ジャックの象徴として、「ジャック・オー・ランタン」が作られました。そして今、悪霊を追い払うものとして使われてきたそうです。



《トリック・オア・トリート(Trick or treat)とは？》



英語圏では子どもたちが仮装して、「Trick or treat」と言いながらお菓子をねだるのですが、その習慣はアメリカから始まったと、言われていますが起源はよくわかりません。「Trick or treat」は、「お菓子をくれないと、いたずらするぞ！」という意味で、子どもたちが「Trick or treat」を唱えながら、お菓子をおねだりするチャンスです。この「Trick or treat」を直訳すると、「Trick」は、悪巧み、いたずらを意味し、「Treat」は、招待する、接待する、という意味があります。このようにハロウィンには、元々宗教的な意味合いがあるのですが、日本ではイベントの一つとして楽しまれています。皆さんもハロウィンでは思い切り仮装したり、部屋を装飾したり、おいしい料理を食べたりして楽しみましょう。

フリースペースふきのとうでも、みんなのマルシェ星の風でハロウィンのイベントをするよ！みんな、必ず来てね♡
10/25(水)～10/31(火)予定 場所:みんなのマルシェ星の風
ランタン作りなどなど…。



スケジュール帳に
入れてね!

ふきっ子情報局



活動内容	日時	場所	対象		
			不登校	ひきこもり	一般
不登校の子どもたちの居場所 「ぼこ・あ・ぼこ」	2017年4月～2018年3月 火・土曜日 13:00～17:00	フリースペースふきのとう 「ぼこ・あ・ぼこ」	○	×	×
〈佐世保市委託事業〉 ひきこもりの青年たちの居場所 「ぼれぼれ」	2017年4月～2018年3月 月・火・金・土曜日 10:00～16:00 木曜日 8:00～14:00	フリースペースふきのとう 「ぼれぼれ」	×	○	×
〈JT NPO助成事業〉 中間就労支援 「みんなのマルシェ星の風」	毎週金曜日 10:00～16:00	戸尾町商店街西海市場内 みんなのマルシェ星の風	×	○	○
手芸サークル	第1火曜日 13:30～15:30	フリースペースふきのとう 「ぼれぼれ」	親 ○	親 ○	×
ティーパーティ	第2木曜日 11:00～14:00	フリースペースふきのとう 「ぼれぼれ」	女性	女性	×
不登校児を持つ親の会	10月6日(金) 19:00～24:00	フリースペースふきのとう 「ぼこ・あ・ぼこ」	母親	母親	×
おやじの会	10月6日(金) 19:30～21:30	フリースペースふきのとう 「ぼれぼれ」	父親	父親	×
〈佐世保市委託事業〉 ひきこもり家族のつどい「あのねの木」	10月19日(水) 10:00～12:30	佐世保市福祉活動プラザ	×	家族	×
ひきこもりの家族の会	10月26日(木) 13:30～15:30	フリースペースふきのとう 「ぼれぼれ」	×	家族 ○	×
〈WAM助成事業〉 国民年金フォーラム	9月23日(土) 13:30～16:30	アルカスSASEBO イベントホール	親 ○	親 ○	○
〈佐世保市委託事業〉 ひきこもり家族支援講演会	10月7日(土) 13:30～16:30	アルカスSASEBO 3F大会議室A	親 ○	親 ○	○
〈ふれあいのあるまちづくり県民運動助成事業〉ハロウィンウォーク2017 市場に魔女あらわる	10月25日(水)～31日(火)	戸尾町商店街西海市場内 みんなのマルシェ星の風	○	○	○

※毎週火曜日に不登校の居場所で数学を14:30～15:30まで学習サポートをしています。

※毎週火曜日と水曜日にひきこもりの居場所で英語を14:30～15:30まで学習サポートをしています。

※毎週木曜日にひきこもりの居場所で発達障がい児向けを15:30～16:30まで学習サポートをしています。

※毎週土曜日に不登校の居場所で英会話を15:30～17:00までやっています。

※9/25(火)、10/10(火)は、イベントの代休で、ひきこもりの居場所兼事務所はお休みします。



特定非営利活動法人 フリースペースふきのとう

会員募集中

お申し込み・お問い合わせ
TEL:(0956)25-6222
FAX:(0956)76-8131

ホームページやFacebook、
ブログで最新の情報をご覧
いただけます。

【正会員】 団体・個人1口5,000円(総会の議決権を持っています。)

【賛助会員】 個人1口3,000円 団体1口5,000円

※上記の会員になると、会報「星の風」や事務局だより、事前のチラシ等情報をお届けします。

【情報会員】 団体・個人1口2,000円(会報「星の風」や事務局だよりを定期的に購読する方)

【広告支援会員】 法人・企業1口30,000円

会員になると、広告年間6回と名前での掲載4回。年間事業の当日パンフレット
に掲載。当法人の広報紙「コロポックルのお茶会」年8回発行にお名前を掲載
と、この会のホームページに企業・法人のお名前を掲載(リンク)致します。